

福島県環境創造センター交流棟展示の 課題及び更新の考え方等

目 次

各種アンケート調査からみるコミュニティ福島の現状と課題	・・・ 1
震災から10年、開館から5年を経たコミュニティ福島の展示などの現状と課題	・・・ 2
展示更新の基本的な考えかた（案）	・・・ 3
リニューアル後の展示室の全体構成（たたき台）	・・・ 4
展示室の全体構成（たたき台）－現在の展示との整理	・・・ 5
ゾーニングと展示展開の方向性（たたき台）	・・・ 6

各種アンケート調査からみるコミュタン福島の現状と課題

	アンケート対象	アンケートの主な回答	課題
（コミュタン福島に関する一般の方）	①全国（web調査）	「コミュタン福島」に来館したい理由は、“福島県の復興の現状”に関心があるが1番であり、次いで“福島県の環境回復”、“放射線について”、“福島県における環境創造の取組”に関心があるといった順となる。	<ul style="list-style-type: none"> 復興の現状や環境回復の現状について最新の情報を展示する必要がある。 環境回復に係る研究などの取組の発信を強化する必要がある。
	②福島県内（web調査）	「コミュタン福島」に来館したい理由は、“福島県の復興の現状”に関心がある”が1番であり、次いで“福島県の環境回復”、“福島県における環境創造の取組”、“放射線について”に関心があるといった順となる。	<ul style="list-style-type: none"> 復興の現状や環境回復の現状について最新の情報を展示する必要がある。（再掲） 環境回復に係る研究などの取組の発信を強化する必要がある。（再掲）
来館者	③来館者（一般）	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の来館者が展示内容を理解できると回答。 「環境創造シアター」が印象に残り、「環境創造ラボ」、「ふくしまの環境のいま」の印象が薄いとの回答。 県内に居住する来館者は「環境創造シアター」が印象に残ったと答え、県外に居住する来館者は県内に居住する来館者に比べ「ふくしまの3.11から」が印象に残ったとの回答が多かった。 シアターの映像を増やしてほしい。復興の進み具合をさらに知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくしまの3.11から」、「環境創造シアター」については、映像などを最新の情報に追加・更新する必要がある。 「ふくしまの環境のいま」については、ふくしまの環境についての現状や課題がわかりやすく伝わる展示とする必要がある。 「環境創造ラボ」については、来館者の関心が持てる体験性の高いものとするなど、来館者の関心が持てる展示とする必要がある。
	④来館者（小学校の教員）	<ul style="list-style-type: none"> 来館した小学生で展示を理解できるとの回答は100%に近い（滞在時間が長いほど良く理解できたとのこと） 原子力災害をよく知らない年代が入学してきているため、「ふくしまの3.11から」のコーナーがとても役立つ。 学校の学習としては、「放射線ラボ」が役に立ったとの回答が多い。一方、「環境創造ラボ」は体験展示となるものの評価が高くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくしまの3.11から」については、映像などを最新の情報に更新する必要がある。 「放射線ラボ（ケアラボ、除染ラボ、探るラボ含む）」については現在の魅力を残しつつ、放射線に関する最新情報の発信等について検討する必要がある。 「環境創造ラボ」については、体験性の高い展示とし、来館者に印象が残るようにする必要がある。
	⑤高校生モニター	<ul style="list-style-type: none"> 「環境創造シアター」、「ふくしまの3.11から」等の映像系の展示がわかりやすかったとの意見が多い。 一部の生徒から「環境創造ラボ」がわかりにくい、もっと詳しく知りたいとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくしまの3.11から」、「環境創造シアター」については、映像などを最新の情報に追加・更新する必要がある。（再掲） 「環境創造ラボ」については、再生可能エネルギーに加え、今日的な課題であるSDGs、気候変動などを取り上げながら、来館者の印象に残る体験性の高い展示とする必要がある。
業務受託者	⑥交流棟運営受託者	<ul style="list-style-type: none"> 放射線ラボの展示における動画等の人気がない。もっと体験できる展示が良い。また、放射線利用の展示が少ない。 「ふくしまの環境のいま」における展示において表現がわかりにくい。 「ふくしまの3.11から」、「環境創造シアター」の映像内容が一部古い。 「探るラボ」の活用について検討する必要がある。 「ふくしまの環境のいま」と「環境創造ラボ」の展示内容が重複している点が多いため、一体化するなどの対応が必要。 SDGsに関する展示の強化が必要と感じる。 コロナ禍の影響での課題（放射線ラボにおける一部展示什器が見学時に密になる、探索ビューワーの利用中止等） 	<ul style="list-style-type: none"> 「放射線ラボ（ケアラボ、除染ラボ、探るラボ含む）」については現在の魅力を残しつつ、除染等の情報発信のあり方、探るラボの使い方を検討する必要がある。 「ふくしまの環境のいま」については、ふくしまの環境についての現状や課題を最新の情報にするとともに内容を見直す必要がある。 「ふくしまの3.11から」、「環境創造シアター」については、映像などを最新の情報に追加・更新する必要がある。（再掲） 「環境創造ラボ」については、再生可能エネルギーに加え、今日的な課題であるSDGs、気候変動などを取り上げながら、来館者の印象に残る体験性の高い展示とする必要がある。（再掲） 「探るラボ」については利活用について検討する必要がある。

※ ①②⑤⑥は環境創造センター総務企画部企画課調べ（①②は令和2年度、⑤⑥は令和3年度）、③④は交流棟運営受託者（株）ペスコ）調べ（平成29～令和元年度）

震災から10年、開館から5年を経たコミュタン福島の展示などの現状と課題

全体

リピーターにつながるコンテンツや演出とafter/withコロナを見据えた展示体験の提供

- 東日本大震災・原子力災害伝承館など県下の震災関連施設が複数ある中で「環境創造センター」が発信し、体験してほしい内容の再検討
- After/withコロナを見据えた展示手法の検討も必要。



福島県東日本大震災・原子力災害伝承館

環境創造シアター

未来に向けてよりメッセージ性の強いコンテンツの配信

- SDGsなどの世界的な動向も踏まえ福島県として未来に向けたメッセージを世界に発信していくことが必要。
- また震災から10年が経過し福島の復興をさらに加速化させる様々な新たな魅力の発信が必要

探るラボ

壁があることによる空間の閉塞感と環境創造センター自体の更なる情報発信の必要性

- 探るラボの活用頻度が少なく、また壁もあるため閉鎖的な空間となっている。
- 当初、環境創造センターの研究内容の発信や対話・交流の場を志向していた。研究内容や研究設備等の発信の強化が必要。



除染ラボ～取り除き取り戻す～

除染の最新状況に関する情報発信の在り方

- 避難指示区域外の住宅や生活空間の除染が終了し、今後中間貯蔵施設への輸送と安全管理、その後の県外搬出となる中で、現在の展示は、身の回りの除染（住宅等）の情報が主の構成となっている。
- すでに完了した内容、これから進められる事項などを伝える必要がある。



ケアラボ～自分の身を守る～

空間線量率や場所ごとの放射性物質のたまりやすい場所などについてコンテンツの再検討

- 除染や自然減衰による放射線量（率）の変化を伝える内容。今後どのような内容が必要となるか検討が必要。
- タブレットを使ってARで見えない放射性物質を可視化する体験。感染症対策を踏まえた、利用法などの検討も必要。



放射線ラボ 映像コンテンツ

最新の県内動向を映像内容に反映

- 食品や米に関する検査など最新状況の反映やすでに終了している取組、現在進行形でのナレーション表現など微修正が必要な箇所もある。

再生可能エネルギーの可能性

県内の最新動向の反映と体験性の向上

- 水素エネルギーなどこの10年での新たな取組に関する情報が欠如している。
- 映像とグラフィック主体の展示となっており、より体験性の高い展示で記憶に残る演出や仕掛けが望ましい。



環境創造ラボ（全体）

国際的な潮流や視点にも出会える場の創出

- SDGs等、環境創造に関する世界的な潮流の紹介が少なく、県内の取組の紹介が主になっている。また、能動的に体験できる展示更新が必要。



ふくしまの歩みシアター

震災から10年を経た最新の県の姿を映像内容に反映

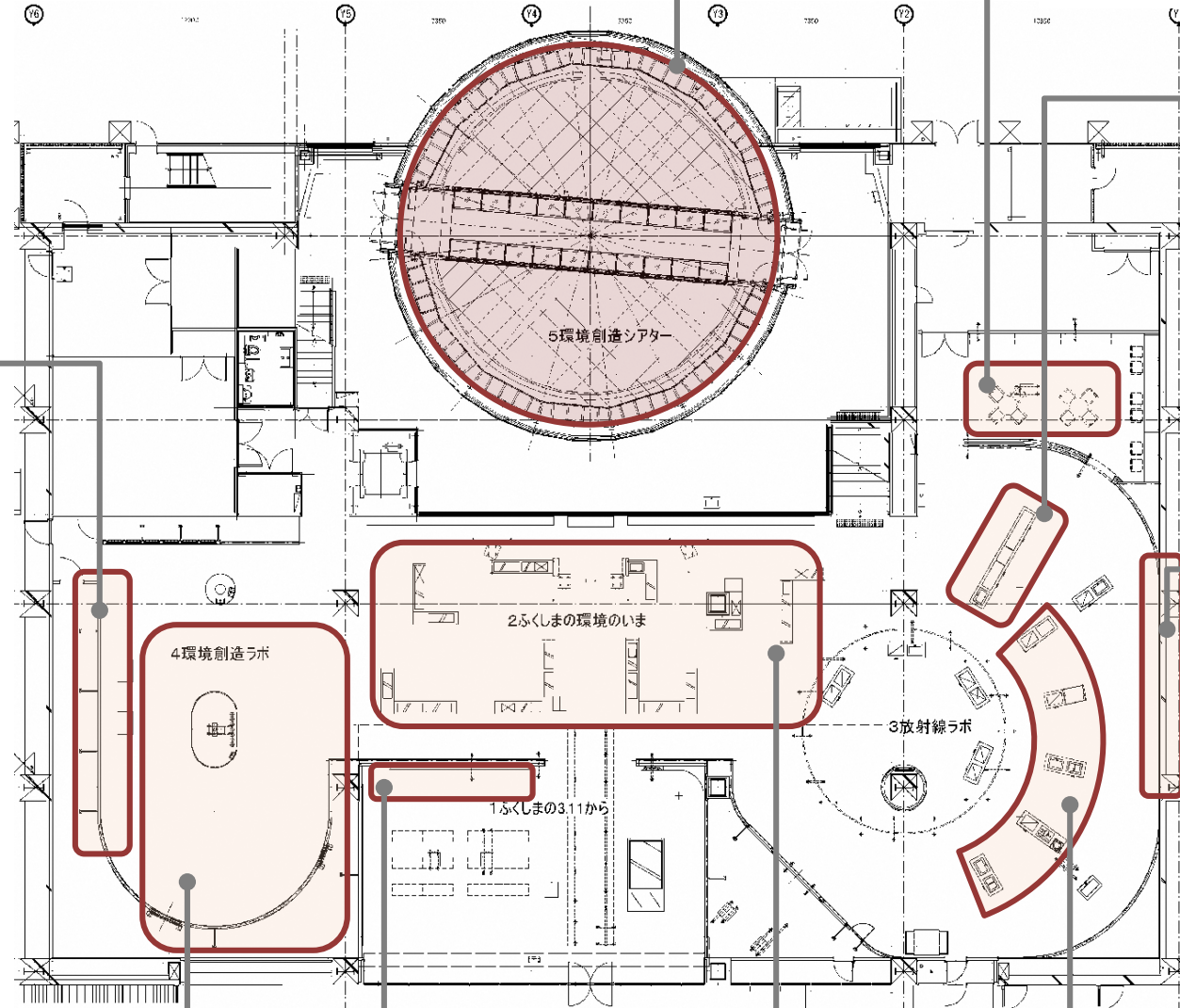
- 復興や除染、食べ物に関する放射線量率の検査などが主のため、新たな取組を盛り込む必要がある。



ふくしまの環境のいま

更新性を重視した数値中心の情報発信

- 福島県下の環境に関する数値と過去との比較が主。
- 来館者の記憶に残るインパクトが必要。
- 各テーマ別の今日的な課題に出会ったり、世界的な動向の紹介、課題解決に向けた方策などの情報も必要。



展示更新の基本的な考えかた（案）

■発信強化のポイント：

原発事故からの環境回復・復興だけでなく、「**環境**」の視点から挑戦する福島の強みを生かした**自然共生型／持続可能な社会の実現**など、**福島だからできる取組の発信**を強化します。

■時流の反映とリピーター対策：

地球温暖化問題、近年急増する大規模自然災害などは、人間の自然への過剰な負荷が原因で様々な環境問題が引き起こされていると指摘されています。これらの**地球環境問題について、福島における環境回復・創造の課題やその取組と結びつけながら学ぶ**機会をつくります。確実に環境回復している福島の姿、持続可能な社会へ近づいていく姿を常にアップデートし発信していくことで「**最も新しい福島の今と未来の姿**」を知ることができる場所としていきます。

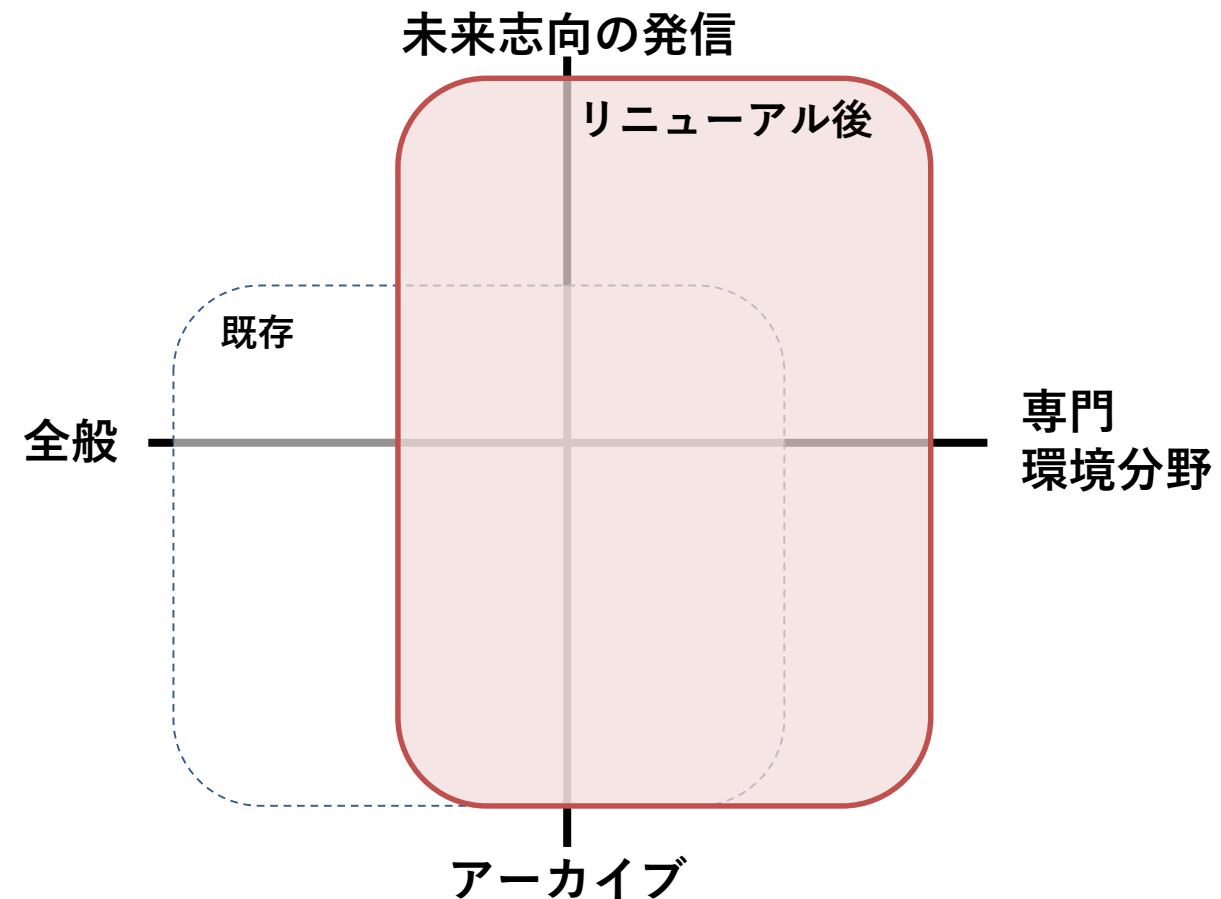
また、**地域振興に関わるホープツーリズムやエコツーリズムの拠点**としても機能させ、集客やリピーター率向上につなげていきます。

■施設の位置づけ：

- ・事故の記録や歩みを正しく伝え、福島が未来に向かって目指すビジョンを共有する施設とします。
- ・環境課題に関する取組を中心とした展示構成とします。
- ・施設の来館をきっかけに、環境課題を自分事化して考えることができるようになる施設を目指します。

現在の施設は、東日本大震災・原子力災害伝承館等をはじめとする震災関連施設の開館前に整備されたため、事故の記録や環境回復に向けて除染等を中心としてどう環境回復を進めているのか等について発信していく要素が比較的多い構成となっています。

リニューアル後は、環境課題に取り組む専門性と未来に向けた福島の姿を発信していくことを目指します。



リニューアル後の展示室の全体構成（たたき台）

4.環境創造エリア

未来創造エリアで発信された環境創造の取組の成果とその現況を発信

●取組の「成果」や「現況」を紹介し、来館者が自分にもできることに気づき、未来のために行動を変えていくきっかけとなる

未来を担う子供たちが、福島において環境創造がどのように進んでいるかを楽しみながら学習する場。また、福島の自然の魅力を再発見し、改めて自然を守ることの大切さに気づく場。福島および地球の環境問題について自分ごととして捉え、自らの行動を変えていくきっかけを作る場。



5.環境創造シアター

ふくしまの視線の先に

●新規映像追加制作

環境を軸に未来指向の明るいビジョンを示す

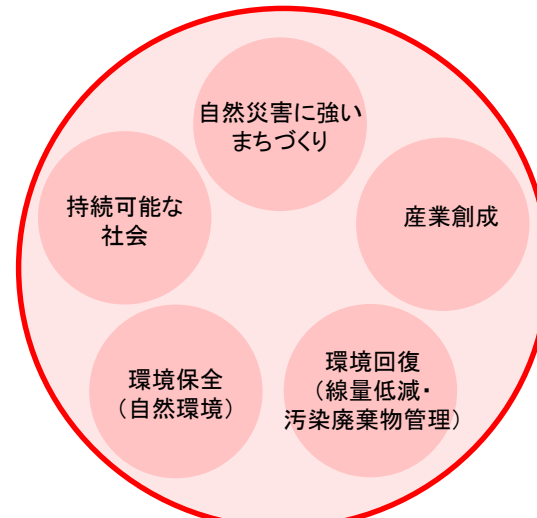
2.未来創造エリア

解決すべき課題と未来へ向けてのビジョンを共有し、その実現に向けた取組を発信

- 「課題」の共有と「未来ビジョン」の提示
- 課題解決に向けた「取組」の情報発信

環境回復・創造の具体的な取組と未来のビジョンを示す。

- ・事故後の放射性物質による環境汚染からの回復への取組
- ・脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会など環境の視点から福島の強みを生かした未来へ向けた創造への取組
- ・環境技術等を中心とした福島発のイノベーションや自然災害に強いまちづくり等についての取組



1.プロローグ

ふくしまの3.11から

3.11に始まる原子力発電所の事故からの歩みと福島の今を伝える。「原子力に依存しない福島」という福島県の強い意志を発信するとともに、事故からの回復への歩みの記録を後世に伝える。

●ふくしまの歩みシアター 映像再編集

事故による環境への影響、事故後の環境回復のあゆみ、未来創造のビジョン等、リニューアル後の展示内容を効果的に学習できるように編集する。

6.触れる地球

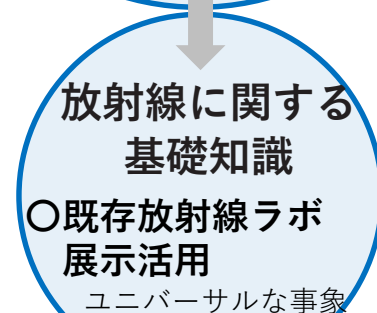
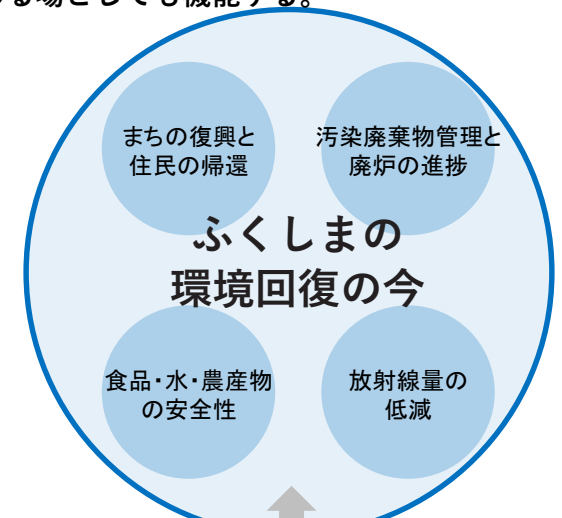
※変更なし

3.環境回復エリア

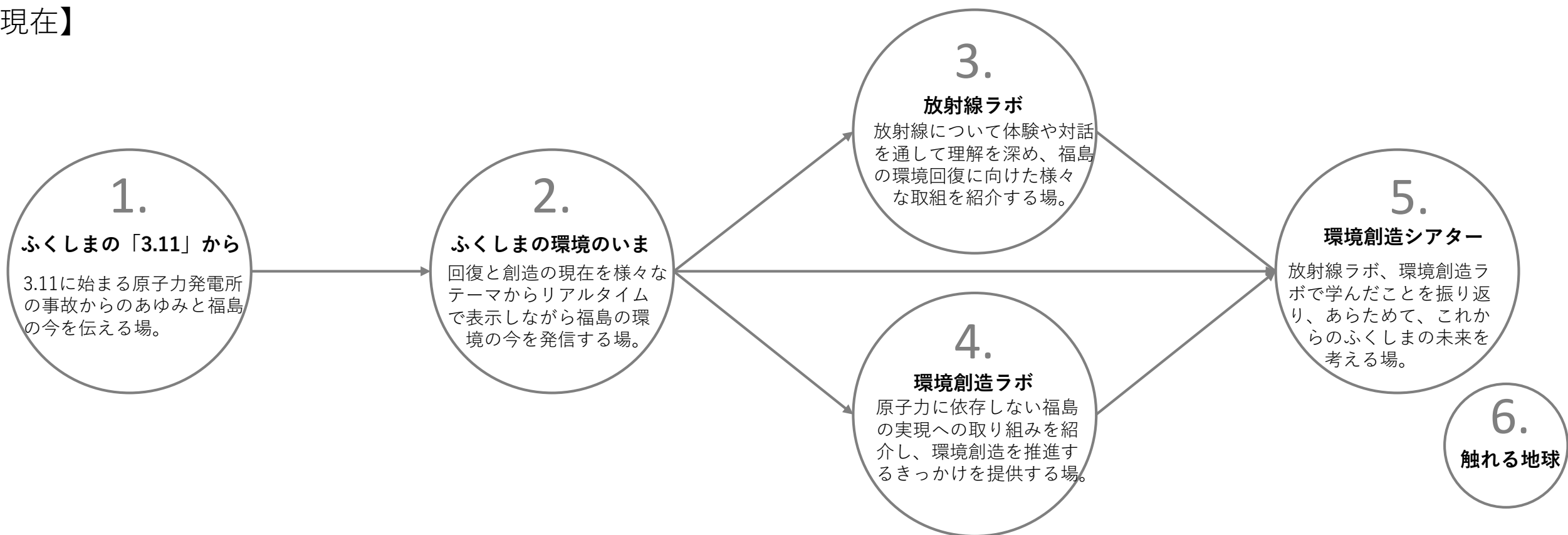
放射線に対する正しい知識及び未来創造エリアで発信された環境回復の取組の成果とその現況を発信

●取組の「成果」や「現況」を伝えることで来館者が未来に対する希望を抱き再び人々が集うきっかけとなる

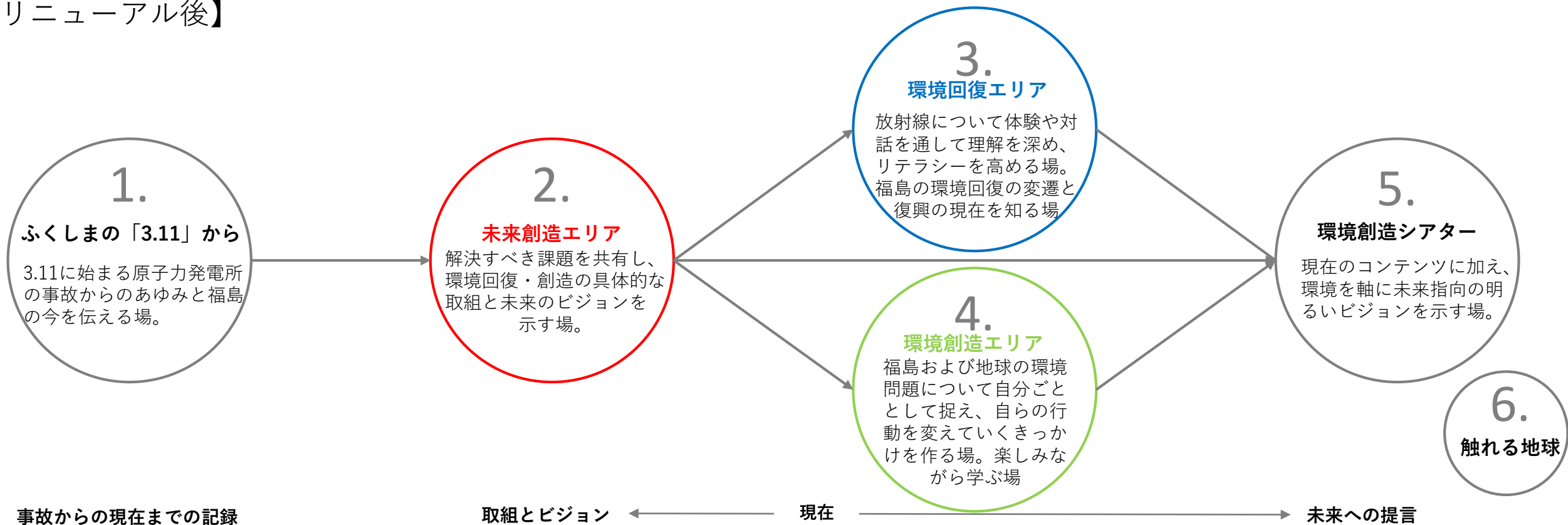
放射性物質の拡散による環境汚染から10年の時を経て次のフェーズに以降しつつある福島のこれまでの変遷と復興の現在を知る場。今後一層進む、復興に合わせ、住民が安心して福島で暮らしていくための放射線に関するリテラシーを高める場としても機能する。



【現在】



【リニューアル後】



ゾーニングと展示展開の方向性（たたき台）

●未来創造インフォストリーム：

デジタルサイネージで未来創造に関わる取組や研究情報を発信

映像、資料、研究者インタビュー、図表など様々な情報を取り出すことができます。デジタル化により、多言語化対応、対象年齢別の解説等がしやすくなります。また、過去の取組から情報が集積されていくことにより、データベースが構築されていき、環境回復や創造の経年変化を俯瞰することができるようになります。

●マッピングふくしま：課題と未来のビジョンの共有

原発事故による福島自然环境への影響、また近年の地球規模の環境破壊、温暖化、資源、廃棄物、生物多様性等問題などの課題を地図上にビジュアル化して見せる。また、それらの課題を解決し、未来を切り開くための数々の取組と福島の未来へ向けてのビジョンを示します。
(福島から地球規模までスケールを変えながら展開)

●オープンラボ：

研究をより身近に感じる取り組み紹介 バーチャルラボツアーやトークイベント

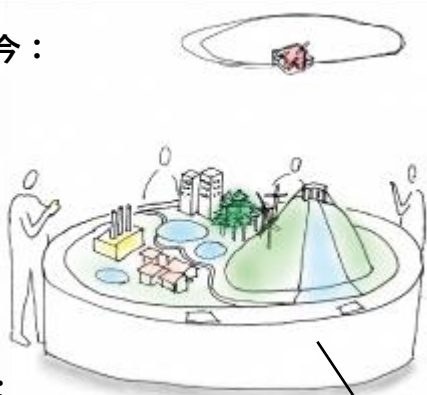
市民、研究者や様々な活動に関わる人々との交流スペース
環境創造センター内の活動をより身近に知ってもらう
「バーチャルラボツアー」などの展開を想定

○数値から見る環境回復と環境創造

現展示「ふくしまの環境のいま」で展開する環境数値等の変遷を情報提示します。

●探る！ふくしまの環境創造の今：

ジオラマで作られた福島の街や自然を望遠鏡やドローンで偵察しながら、環境創造が今どれくらい進んでいるのかを探っていきます。その中で、自分の行動が環境創造につながることも学びます。
(能動的に体験できる展開を想定)



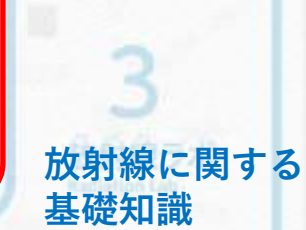
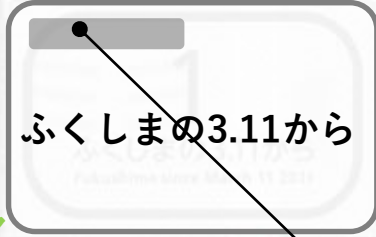
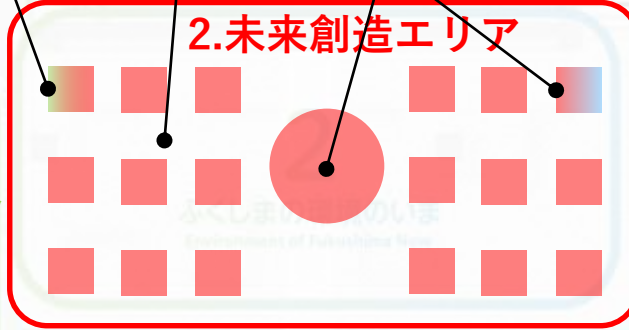
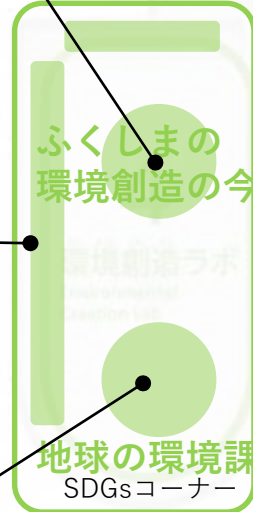
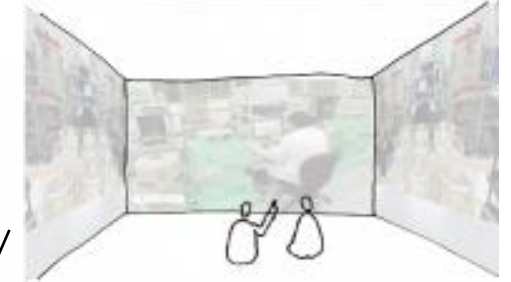
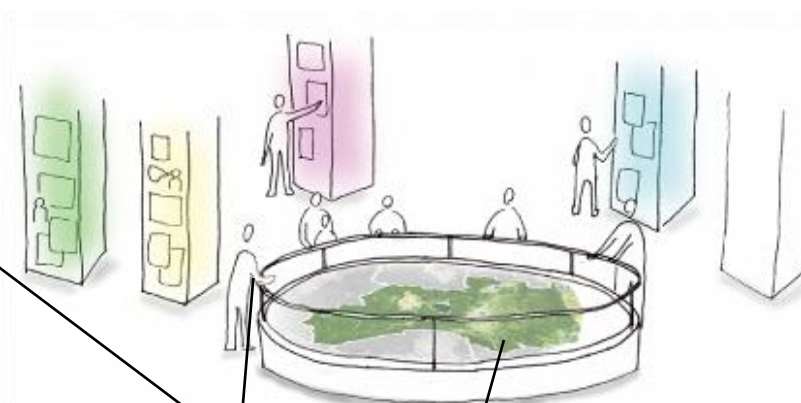
●魅力再発見！ふくしまの自然：

福島の国立公園等、県内の豊かな自然の魅力を再発見し、改めてこのかけがえのない自然を守ることに気づき、環境問題を自分事化することにつながります。



●地球の環境課題エリア（SDGsコーナー）： 再来館者獲得につながる遊びやゲーム性を通じた学び

SDGsをはじめとし、現在地球環境が抱える課題について、デジタルコンテンツ等、実体験と仮想世界が融合した世界観の中で、ゲームや遊びの要素を用いながら学んでいきます。



●ふくしま情報マルシェ： 回復の変遷と最新情報 ふくしまの復興の今が見える

パネル、実物、映像など内容更新がしやすいユニット什器で展開
情報の規模に応じて什器の数や場所を自由に変えられる



●ふくしまの歩みシアター： 映像再編集